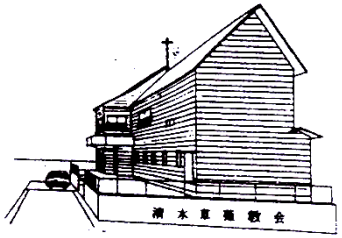
≪今朝の聖書から≫

秋葉原で通り魔事件がありました。このことだけでも、沢山のことを問題として投げかけています。一人で問題を解決する力を身につけようという解説も、現代の若者は理解できない、なんの利益にもつながらない、解釈しようのない犯罪を犯してしまう、という指摘も、沢山の人たちによって語られていますが、“世の中の構造という考えが必要になってくる”という前提は間違っていないと思われます。教会はそのような社会で強くならなければならないのです。またそのように造られているのではないでしょうか。クリスチャンにもいます。“いろいろの仕事をしても、私は不幸なのでうまくいかない”、“私は孤独で、一人ぼっち。理解者が本当にいないし、教会も理解者になってくれない”などという話を聞いたことないでしょうか。それどころか自分も言いたくなることもあるようです。今日の聖書に出てくる人もそうです。３８年間も、“病気と闘っている人”の様子を想像してみましょう。“羊の門”と呼ばれる門がエルサレム神殿の北側にありました。第二神殿が作られた時代のものだそうです。巡礼者は、ここで旅の汗を流し、きれいになって、宮詣でをしたのだそうです。“池”というよりは宗教的な意味でも人々が遠くから集まるところと思った方が良さそうです。それがいつしか、“病に効く不思議な力の宿る池”という言い伝えが生まれました。しかし思ってみましょう。３８年間も病気の回復を願い続けることができるでしょうか。初めの数年間はそうだったかもしれませんでしたが、やがて家族との関係もなくなり、この場所が彼の生活の場所のすべてということになったに違いないのです。寝具持参・ささやかの道具も彼は持ち込んでいたことでしょう。やがて彼は障害を抱えて、治ることの期待を持ち続けることもしなくなるのです。ただ、不平が彼を支配し、諦めという現実の中でうめき、うずくまっていたのです。私たちの現実の中でも、どうしようもないことに心を奪われるということからは逃げたいものです。治ったと言って喜ぶ人は、軽い病気の人に決まっています。なぜなら自分で動けるからです。また思いをめぐらしてみましょう。イエス様はなぜここに来たのでしょうか。病人は“人がいてくれないのです”と嘆きを口にします。沢山の病人の中で彼は孤独だったのです。ここにイエス様が来られた理由があります。“病人のところに来たのだ”とイエス様は仰っています。伴ってくださるイエス様が今も全ての人の近くに、いてくださるのです。

週　報

２００８年　６月　１５日



伝えよう　救い主を
迎えよう　主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前　9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	（聖餐式　第一日曜日）	
夕礼拝式	毎日曜日	午後　7：00
エステルの会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後　7：00

ホームページ　http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　E-Mail grace@big.jp
牧師　村上定幸